

令和元年度 「市長と語る市政懇談会」記録



鶴城地区〔ハツ面・鶴城〕

令和元年7月30日（火） 午後6時30分から

鶴城ふれあいセンター〔わかつるホール〕

市政懇談会次第

- 1 開会
- 2 市政運営について（市長）
- 3 地区とりまとめ意見・質問等の回答
- 4 自由意見交換
- 5 閉会

出席者等

懇談会の地区代表者	鶴城小校区：高橋修子代表町内会長
校区代表町内会長	八ツ面小校区：畔柳 修代表町内会長
地区関係市議会議員	山田慶勝議員、青山繁議員
市 関 係 者	中村市長、長島副市長、稲垣教育長、 近藤総合政策部長、高原総務部長、宮地危機管理局長、 齋藤資産経営局長、岩瀬健康福祉部長、山口子ども部長、 山崎市民部長、加藤産業部長、新實環境部長、 吉田建設部次長、榊原上下水道部長、尾崎市民病院事務部長、 永谷教育部長、近藤消防署長 事務局：細田秘書広報広聴課長、高須秘書広報広聴課長補佐ほか 3名
出 席 者 数	市民 63 人、地区関係市議会議員 2 人、市関係者 22 人、 報道関係者 2 人
事前意見・質問等	整理区分 6 件 内訳：意見 1、質問 3、要望 1、提案 1
自 由 意 見 等	整理区分 8 件 内訳：意見 3、質問 4、提案 1

令和元年度 「市長と語る市政懇談会」(鶴城地区〔八ツ面・鶴城〕)

○細田秘書広報広聴課長

皆さん、こんばんは。

私は、この懇談会の事務局を務めます秘書広報広聴課長の細田でございます。

よろしく願いいたします。

なお、本日は出席者がクールビズの推奨によりノーネクタイの軽装でありますこと、また、特産品やイベントのPRポロシャツを着用しておりますことを御承知ください。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る市政懇談会」鶴城地区の八ツ面・鶴城小校区を開会いたします。

初めに、本日の出席者を御紹介いたします。

この懇談会の開催に当たり、多大なる御協力を賜りました地区の代表町内会長の皆様で、鶴城小校区の高橋修子様、八ツ面小校区の畔柳 修様、以上の皆様でございます。

また、市議会からは山田慶勝議員、青山 繁議員、以上の

皆様に御出席をいただいております。

そして、市からは中村市長を初め、長島副市長、稲垣教育長、そして関係部局の部長、部次長が出席しております。

どうぞ、よろしく願いいたします。

続きまして、本日の予定を御案内いたします。

この後、15分程度の時間で、市長が市政運営についてお話を申し上げます。その後、事前にお聞きいたしました御意見や御質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

また、地区取りまとめの御意見等とは別に、参加者の皆様から広く御意見等をお聞きする自由意見交換の時間も設けておりますので、まちづくりに対する御提案や御意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら御発言をいただきたいと思っております。

皆様との懇談のお時間は午後8時15分までとさせていただきます。その後、若干の連絡を申し上げて閉会とさせていただきますので、御協力をお願いいたします。なお、懇談会の途中の休憩時間は設けておりませんが、会場出入り口を開けておりますので、必要に応じて入退室いただければと思っております。

また、記録用としまして、懇談会の音声録音と写真撮影をさせていただきますことを御了承ください。

それでは、市長から挨拶を兼ねて、市政運営について御説明を申し上げます。

○中村市長

皆さん、こんばんは。西尾市長の中村 健でございます。

本日は「市長と語る市政懇談会」八ツ面地区、鶴城地区に御参加をいただきまして、まずもって御礼を申し上げます。ありがとうございます。

西尾市におきましては、2年に1度、この地区別の市政懇談会を行っております、ちょうど今年が開催年ということとなります。せっかくの顔を合わせてのコミュニケーションの機会といいますか、意見交換の機会でありますので、相互理解が深まるような有意義な時間にしたいというように思っておりますので、どうかよろしく願いしたいと思っております。

それでは、今年度の市政運営についてお話をさせていただきますけれども、A3版の、この令和元年度 施政方針に掲げる主な事業という資料をごらんください。ちょっとここから座って説明させていただきます。

まず右側の右上に、多様性が輝く共生のまちづくりという文言があります。これが今年度の施政運営のスローガンであります。ここに込めた思いといたしましては、その多様性とか、共生というのがキーワードになるんですけれども、世の中いろいろな方がいらっしゃるしまして、年齢とか、性別とか、国籍だとか、障害の有無だとかという違いがあるんですけれども、そういった違いを色めがねで見るのではなくて、やっぱり個性と

して一人一人尊重して支え合っていけるような、そういう社会にしていきたいという思いのもとで、このスローガンをつくりました。ですので、市政全体としてはいろいろやっけていくわけでありまして、特にこの多様性とか、共生というところについては、この1年間力を入れて事業を実施していきたいなという考えであります。

その下の辺に、ちょっと令和元年度の見込み（当初予算）というのが枠で囲んであるかと思っておりますけれども、いわゆる予算、予算と言います一般会計というものの予算規模がおよそ550億円で、令和元年度については法人税収なんかを含めて市税の伸びが非常に良かったので、結果としては過去最高規模の予算を組むことができました。具体的にどういった事業があるかというところをこれから説明させていただくんですけれども、色のついている見出しに沿って説明をさせていただきたいなと思っております。

まず最初は、活力と魅力あふれる産業づくりというところになります。全部説明していくと、時間がどうしても足りませんので、僕の方で幾つかピックアップをさせていただいて説明をするということで、お許しをいただきたいなというふうに思います。

まず一番上でありますけれども、全国の茶業関係者が集まる「全国お茶まつり」を開催し、「西尾の抹茶」を初め、西尾の魅力発信というふうにあります。この全国お茶まつりというのは、全国の中のお茶どころで開催をしていて、茶の品評会ですとか、あとは御当地のお茶のPRなんかをする結構大きなイベントでありまして、これが西尾市としては15年ぶりの開催となります。今年の11月に開催する予定でありますけれども、大体来場者がどうですかね。5万、6万人ぐらは来るだろうというふうに見込んでおりますので、まずは品評会で地元のお茶業関係者の皆様にいい成績を取っていただきたいというのもあるんですけれども、市としてもお茶を初めとして、農水産物のPRをしていく中で、広く西尾市のPRも行っていきたいなというふうにご考えているところであります。

続いて5行下がっていただいて、ふるさと応援寄附金制度により西尾市の魅力を広く全国にPRとあります。これがいわゆる、ふるさと納税でありまして、昨年度1年間いろいろ世間的なニュースでにぎわせた話題でもありますけれども、このふるさと納税というのは、要は税金ではない形での市に入ってくる、その収入といいますか、お金といったしましては結構知恵によって、かなり歳入の確保になるので、非常に大事だと思っております。西尾市という場所は抹茶とか、うなぎとか、えびせんべいのような特産品もたくさんありますし、また温泉地でもあったりだとかということで、そのふるさと納税のメニューとしては豊富にあって事欠かないと思っております。あとはその魅力をいかに全国の方にしっかり伝えて寄付という形で返礼品を、その寄付という形でいただけるかというところになるんですけれども、今年度については昨年度よりもどうですかね、1.5倍か2倍ぐらいのペースで伸びていまして、うまくいけば1年間での、そのふるさと納税での寄付金額が4億円ぐらいにはなるのかなというふうな調子であります。必要経費なんか省くと、手元に残るのは半額その半分ぐらいにはなりますけれども、それでも貴重な市としての収入源になりますので、うまく西尾市のPRにつなげながら歳入の確保という形でもしっかり取り組んでいきたいなというふうに思っているところであります。

続いて、大きな見出しの利便性と快適性を高める基盤づくりというところをごらんいただきたいと思っております。まず一番最初の星の主要幹線道路の整備というところで、国道23号名豊道路については名古屋側から見て今、西尾東インターまでが4車線化になっております。おかげで随分、名古屋に行くのは時間の短縮が図られたと思うんですけれども、実際そこから先の部分については蒲郡から豊川の一区間が繋がっていませんとか、あるいは西尾東からその東というか、南の方面はまだ2車線化になっておりますので、この23号バイパスの効果が十分に発揮できていない部分があります。こちらは国道という形になりますので、毎年国土交通省の方に出向いて、早く整備をして下さいという要望はしているんですけれども、まずは繋がっていない区間をつなげて、その後は2車線の区間を4車線化していくという計画でいますので、1年でも早く全線整備が終わるようという形で、今後も力を入れて要望していきたいなというふうに思っております。

次の衣浦岡崎線というやつは、岡崎の中島の方から衣浦トンネルの方までずっとつな

がっている西尾市の大動脈となる道路でありまして、ここが今、平坂とか矢田の方は4車線化になっているんですけれども、大半の西尾市内における区間はまだ2車線化の状況でありまして、これについても物流ですとか、市民生活においてもやっぱりメリットが大きい路線でありますので、少しでも早く4車線化を全線やっていただきたいということで、愛知県の方に要望をしております、今年度からこれまでよりもちょっと整備のペースを上げてやっていただけるという話にはなっていますので、なるべく早く全線4車線化が実現できるようにという形で、これについても愛知県の方に引き続き要望していきたいなというふうに思っているところであります。

次にちょっと飛びますが、この見出しの一番下のところで、西尾駅西側に建設されたコンベンション方棟に加え、ホテル棟がオープンすることにより、駅周辺を核とする賑わい創出の推進というふうにあります。昨年度、西尾駅前とそのコンベンションホールという、要は大きい会議場がオープンしまして、この3月にはビジネスホテルもオープンしたということで、確実に新しい人の流れは正直できています。ただ、その新しい人の流れを十分に経済活動とか、広くまちづくりにまだまだつながっていない部分がありまして、これについては民間事業者の活力がないと、なかなか行政だけでできることに限りがあるんですが、せっかく新しい人の流れができたということでもありますので、これを新たなにぎわいづくりにつなげていけるようにという形で、民間事業者等と協力をしながら、このチャンスを生かしていきたいなというふうに思っているところであります。

次に、地域を支える文化と人を育む環境づくりというところをごらんください。まず、一番最初の星の、子育てできる環境づくりの中の1行目でありますけれども、幼稚園・保育園の認定こども園化の推進とあります。こども園とは何かというところは、ちょっと説明する時間がないんですが、簡単に言えば幼稚園のいいところと保育園のいいところを合わせ持ったような施設がこども園となります。今、西尾市内ではまだこども園というのはないんですが、来年度初めから西尾の中央幼稚園がこども園となる予定でありまして、今後もその子どもさんの状況ですとか、保育のニーズなんかを踏まえながら、順次こども園化できるところは推進をしていきたいなというふうに考えているところであります。

次に2段下がっていただいて、特定不妊治療費及び男性不妊治療費に対する助成制度の拡充というふうにあります。今、僕は典型的な子育て世代になるんですが、同年代の方とお話をしていると、自然に任せて妊娠がなかなか困難な方もいらっしゃるって、専門的な医療の治療を受けて、そういう妊娠というか、出産につなげるという方々もすごく数がふえています。その不妊治療と呼ばれる治療も幾つか段階があるんですけれども、特定不妊治療と呼ばれるような治療になりますと、一度で50万ぐらいかかってしまうこともざらにあったりだとか、あるいは治療をしたけれども、必ずしも妊娠に結びつくとも限らない状況にあって、経済的な事情が理由で出産とかを諦めてしまうということがなるべくないようにしたいということで、今年度から大幅にその助成制度を拡充いたしまして、最大で市としては20万円の補助をさせていただくと。それと、あと同程度の補助が県の方からありますので、その両方を使っていただけると大分経済的な負担は軽減できるのかなというふうに思っているところであります。

次に三つ目の星の、学校施設の整備というところをごらんいただきたいと思います。最初の、児童生徒の学習環境を改善するため、全ての小、中、義務教育学校普通教室へのエアコン設置とあります。今年は今週になって大分暑さが厳しくなってきましたけれども、昨年度に比べると、正直、暑さの度合いとしては、かなり低いというふうに思っています。昨年度は本当に40度近いような日が連日続いておりまして、豊田市なんかでは暑さが原因で命を落とされる子どもも出たりなどして、そういった状況もありましたので、西尾市としては今、小、中学校と佐久島の義務教育学校への普通教室のエアコンの設置をスピーディーに進めているところでありまして、今年の夏はちょっと間に合わない状況でありましたけれども、何とか今年度中に全て完了して、来年の夏には快適な環境で子どもたちに過ごしてもらえようという形で今、段取りを進めているところでありますので、また御承知をいただきたいなというふうに思っています。

次に2段段下がっていただいて、「県立特別支援学校」の開校に向け、建設地の造成工事などに着手とあります。今うちの須脇町というところで、県立の特別支援学校の整備に向けて進めているところでもあります。目標の開校年度が令和4年4月となりますので、まだ3年ほど時間はかかってしまうんですけども、今そういった障害がある子どもたちが安城の特別支援学校だったり、あるいは岡崎の美合の学校に行っているんですけども、安城の方はもうパンク状態で、これ以上なかなか人が増えられないぐらいのパンク状態なのと、あと岡崎の方は片道で1時間以上、通学がかかってしまうということで、そうした子どもたちの負担軽減だとか、もっと充実した特別支援教育を受けてもらえるようにということで、愛知県の方の決断によりまして、西尾で整備をしていただくということになりました。今のところ予定どおり準備が進んでいますので、これが遅れることなく目標としております令和4年の4月に向けて、しっかり開校できるようにということで着実に準備を進めていきたいなというふうに思っているところでもあります。

次に裏面、裏側を見ていただきたいと思います。安心できる暮らしを支える健康・福祉のまちづくりというところで、1つ目の星と2つ目の星で西尾市民病院についての記述があります。西尾市民病院については昨年度、懇談会なんかもさせていただいて、要は目先の経営改善だけではなくて、もう少し抜本的なところで経営改善を図っていかないと、なかなか苦しい状況にあるというのが正直なところでもあります。本日の懇談会で質問をいただいておりますので、詳細はそこでお話しさせていただきたいというふうに思っているんですけども、いろいろどういう方法があるかというのを検討した結果として、今年の3月に碧南市側には、経営母体は一緒にさせて統合するんだけど、病院としては2病院を存続させる形でどうですかということをお碧南市側に提案をして、碧南市側の方からはメリットが出るように調査、研究を進めていきたいというような旨の回答が来ましたので、それについて調査、研究を進めるということと、あとは統合するのかどうかというレベルとは別に、例えば薬品の共同購入なんかを含めて連携してやれるところは早くやってみようということ、そこについては合意ができていますので一緒にやることによって何かコストを下げられる部分については、積極的に取り組んでいきたいなということと、あとは当面の経営改善をやっていくのですが、やっぱり一番の経営が厳しい原因というのは医師不足にありまして、医師の供給元というのは基本的には大学の医局と呼ばれる組織になります。その医局と呼ばれるところの一番トップである教授の方が、その医師の派遣する権限を全部持っているわけですので、その教授の方に西尾市における医療の状況をしっかり伝えて、ドクターの派遣をお願いするという、すごく地道ですけども、それが一番当面としては大事なところでもありますので、病院の院長、副院長も言っているんですけども、僕の方も時間が許す限り直接出向いて、少しドクターの派遣を今もお願いしているところでもありますので、また御承知おきいただきたいなというところでもあります。

次に、大きな見出しの、安全とうるおいのある環境づくりというところになりますが、3行目に防災無線の放送内容や緊急速報メールの内容を確認することができる防災アプリの供用を開始とあります。今年度スマートフォン向けの防災アプリというものを作ったんですけども、昨年度をちょっと思い起こしていただきますと、大きな台風が二つ、三つ来たと思います。市としても、初めて避難勧告というものを出したんですけども、そういった災害情報を伝える手段として、市民の方からよくお声をいただいたのが、行政無線が聞こえませんかという事をいただきました。防災行政無線については、どれだけ精度をよくしたとしても、夜間に雨戸なんかを閉めてしまったりとかして、そういう状況だと正直聞こえるようにするというのは、現実にはできない状況ですので、防災行政無線は防災行政無線で大事なんですが、それ以外の媒体というか伝え方も含めて、いろいろ情報を伝達する手段を用意していこうということが大事だというふうに市としては考えています。市のホームページですとか、あるいはSNSと呼ばれますそういったものですか、あとはキャッチさんの放送なんかも含めて、これまでも情報をお伝えする手段はあったんですけども、最近ですとスマートフォンを使っている方も多いということで、そのスマートフォン向けのアプリをダウンロードしていただきますと、緊急速報メールの内容ですとか、防災行政無線で流した放送内容なんかも確認することができる

ようになっておりますので、ぜひともこちらについては活用していただきたいなというふうに思っています。

次に下から3番目のところ、3行目を見ていただきますと、岡崎、西尾、幸田で協議を進めている広域新焼却施設の建設に向け、立地場所を決定というふうにあります。今、西尾市と岡崎市の一部と幸田町とで一つの大きな焼却施設をつくりましょうという話をしておりまして、具体的にその焼却施設が稼動するのは、もう10年ほど先になるんですが、場所の選定についても今、検討を進めているところでありまして、今一番有力なのが現クリーンセンターですね。ちょうど吉良町と旧西尾市の境のあたりにあり、あそここのところの敷地内につくるということで、現在、一番有力であります。なかなか新しい場所でという、その近隣の町内との御理解なんかも含めて大変なんですけれども、今のところの敷地内であれば、特別今よりも大きな何か被害というか、迷惑がかかるということはないだろうというように考えていますので、今年度中に場所を決定して、また市民の皆さんにもお伝えさせていただくんですが、現状としてはそういう状況にあるということで御承知をいただきたいなというところであります。

最後6番目の見出しの、市民と行政が共に考え、行動するまちづくりという所で、2行目に市民サービスの向上と効率的な行政運営を実現するスマート自治体への転換を目指し、AI、ロボティクスによる事務の自動処理を検討というふうにあります。これはちょっと役所の中の話になるんですが、このスマート自治体というのがキーワードでありまして、要はこれまで我々職員が何十年間と人がやって当たり前だと思っていた業務の中でも、最新テクノロジーを活用することによって、よりその仕事が早くできたりだとか、よりミスが少なくできるという分野がすごく今ふえてきております。ですので、そういうところについては積極的にテクノロジーを活用して行って、その分、労働力が浮きますので、そういった浮いた労働力は市民の皆さんとのコミュニケーションだとか、企画、立案だとかいうところの、もっと付加価値が高い業務をしていただくことで、同じマンパワーでもより高いパフォーマンスが発揮できるようにしたいということで、今そういった取り組みを市役所挙げてやっているところでありまして、来年度から順次方向性がついたところから実施に移していきたいなというふうに思っているところでありますので、また御承知いただきたいなと思います。

以上、ちょっと駆け足になってしまいましたけれども、今年度の市政運営についての主だったものの説明をさせていただきます。この市政運営におけるこの資料全般については、また後ほどフリートークの時間がありますので、その時間に御意見とか御質問等があれば、またお話を承りたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

○細田秘書広報広聴課長

ただいま市長からお話がありました市政運営に関して、御質問などがある方は、今市長が申し上げましたとおり、後ほど設けます自由意見交換の時間で御発言いただくといたしまして、ここからは事前に提出をいただきました御意見や御質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

なお、この懇談会ではかた苦しなく、活発に御意見等をお出しいただけるよう、地区のことをよくご存じの町内会長様に進行役をお願いしております。今回は鶴城小校区の高橋会長に進行をお願いいたします。

それでは高橋会長、よろしく願いいたします。

○司会（高橋会長）

皆様、こんばんは。鶴城小校区代表町内会長の高橋でございます。

皆様におかれましては、日ごろから町内会活動を初め、各分野でまちづくりに御尽力を賜り、また本日は懇談会に御参加いただき、まことにありがとうございます。

さて本日は、市長様初め、市役所幹部の皆様にご直接声を届けることができるよい機会です。限られた時間ではありますが、八ツ面・鶴城地区さらには西尾市を住みよい町にしていくため、有意義な意見交換ができればと思っております。

それでは御指名を受けましたので、ここから私が進行を務めさせていただきます。進行に御協力をお願いいたします。

初めに、八ツ面・鶴城地区から事前にお伝えした意見や質問などに対して、市から回答をいただきます。限られた時間で効果的に懇親会を進めるため、あらかじめ6件の意見等をお伝えしてあります。これについては意見等を提出された町内会の方などに内容を読み上げていただきます。

なお、市からの回答に対しましての再度の御意見や御質問がある場合は、全ての回答が終わった後にお聞きしますので、よろしくをお願いいたします。

それでは1件目を新渡場町町内会長の加藤様、お願いいたします。

○新渡場町町内会（加藤会長）

鶴城校区の加藤と申します。よろしく申し上げます。

今年の春に校区の町内会議におきまして、民生委員改選につきましての協力依頼がありました。それを持ち帰りまして、町内役員で町内の候補になるような方を選んだりとか、またそういう方のところへお願いの訪問に行ったりということ、結構な日数繰り返したつもりですけれども、なかなか決まりませんでした。また、ある元学校の先生のお宅に伺った時の話なんですけれども、この方どちらかという、民生委員の方へお願いするような器の方だったんですけれども、給食費の未納ですか。このようなお話まで民生委員の方へお願いのお話をされたりして、民生委員というのはいもう大変だというのはもう十分承知しています。そんな大変な仕事は私には務まりませんと。軽くお断りの言葉をいただいてしまいました。また、その話を伺った後に、次の方にまた伺うわけですけれども、そのときの私の気持ちと言いますか、言葉が例えが悪いですが、おれおれ詐欺ではないですけど、言葉巧みにうまいことを言いまして、その方に無理やりお答えいただくみたいな、そんな暗い気持ちになって、そのような形の繰り返しをしました。

高尚な民生委員を選ぶに当たってですね、済みません。多くの方々は民生委員は大変だという言葉につきるわけですけれども、そのお願いするに当たって、もともとは言うところ、本当に雑用に近いようなことまで民生委員へお願いしているという現状に問題があるのではないのでしょうか。民生委員の方の仕事を少しでも減らすような対応として、どこかの市の部署が全部窓口となっていただいて、そこで整理してこれは民生委員へお願いするならば、これは言われたあなた大変かもしれないけれども自分でやってくださいよとか、そんなやり取りで本来の民生委員の仕事を軽減していただくような対応を何とかやっていただきたい。そういう思いがひとまずです。

あと民生委員の選出に当たっての、私のちょっと苦情になるんですけれども、一つの選出に当たっての責任者は誰になるのでしょうか。と申しますのは、承諾書というのが回りまわって町内会長に充てられます。これは何だか町内会長、あなた選んでよと、責任者あなただよと言われるぐらいの気持ちになりまして、本当に不本意でした。民生委員はどのような仕事をするのか。例えば月に1回はどこかに集まっていたとして、市やいろいろなところからのお話があってそれを民生委員の方が展開するとか、また、それが何日ぐらい仕事量としてあるのか、全然わからない。こう私たちに、その民生委員について決めようというやりくりは、なかなか納得できるものではないと思います。せめて国勢調査ではないですけども、一から直接依頼いただいて、それなりの知識を得るための説明会を開いていただいて、それで町内回ってくださと言われてるぐらいが最低限必要ではないのでしょうか。

それで今回いろいろな苦勞をしましたがけれども、再任という形で今までやっていただいた方に無理やりお願いしたというふうで落ち着いたけれども、また3年後があるものですから、少しでも民生委員に皆さんが受け入れてくれるような、そんな活動をし

ていただきたいという希望を持っておりますので、よろしく願いいたします。
以上でございます。

○中村市長

加藤さん、御意見ありがとうございます。

最初に用意させていただいた回答をさせていただきますので、それに足りない部分がありましたら、お手数ですが、また後でちょっと再度、御質問いただければなというように思います。

民生委員の一斉改選における選任につきましては、代表町内会長並びに各地区の町内会長の皆様には本当に大変な御尽力でいただきまして、ありがとうございます。

地域の福祉推進の担い手であります民生委員の皆様には、多くの期待が寄せられていることは事実であります。最近では高齢者の孤独死など社会問題が起きていることや、市役所などからの依頼を受け、業務を行っていることから民生委員は大変だと言われている原因ではないかというふうに思っています。民生委員の皆様への業務の依頼につきましては、窓口である福祉課で取りまとめ、毎月開かれます民生委員児童委員協議会の理事会で説明、承認を得た後、地区民協、地区ごとの協議会にて、全体に依頼をさせていただいているところであります。地区民協では、担当者が出席をし、直接説明を行うとともに、個別の相談等につきましても担当職員が話を聞くなど、民生委員の皆様の負担を軽減するように努めているところでございます。

民生委員活動のPRにつきましては、12月の広報にしておに活動内容を掲載予定でございます。また、民生委員の選任につきましては、町内会長の皆様に依頼しているところでございますが、これは民生委員が市民と行政をつなぐパイプ役となっていることから、地域の実情をよく把握されております町内会より御推薦をいただきたく、依頼をさせていただいております。決して町内会長が責任者というわけではなくて、あくまでも市が責任者なんです、そのように感じられになってしまったということに対しては、大変申しわけなく思っております。

なお、御提案いただきました町内への直接の依頼につきましては、代表町内会長会議で説明させていただいた内容について御不明な点がございましたら、各ブロックの町内会長様に直接説明するなどの対応をさせていただきますので、御理解いただきますようによろしく願いいたします。

以上です。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

次に、2件目を亀沢西部町内会長の杉浦様、よろしく願いいたします。

○亀沢西部町内会（杉浦会長）

鶴城亀沢西部町内会の杉浦と申します。よろしく願いします。

PFI事業について、お伺いします。広報、新聞等で、PFI事業の調整、難航等がよく報道されていますが、改めまして何が問題なのか。今までに見直した事業、また今後の見通しを説明願いたいと思います。

それと合わせて、7月25日の中日新聞、最近よく三河版でPFI事業のことがよく載っております。吉良支所の事が載っております、これは何かフィットネスが何か生涯教育に変えられるということで、とりあえず12月末でしたか、8億6,000万円を支払って市の方へ移管したと。それで改修するというので、予算が業者の方だと2億円ぐらい。市の方だと1億円ぐらいということで、まだ開館が遅れているということですので、それについても今後の方向性ですかね。いつごろ開館予定だとか、詳しく一度御説明をお願いします。

○中村市長

杉浦さん、御質問ありがとうございます。

まず、前段について僕の方からお答えをさせていただきます。PFI事業につきましては、箱物中心の面が多く、市民不在で進められてきたため、一時中断をし、全面的な見直しをすとの方針のもと、これまで見直しを進めてまいりました。

平成29年度には「市長と語る意見交換会」、「PFI事業についての懇談会」や「市民アンケート」などを実施し、市民ニーズを反映させた「西尾市方式PFI事業 検証報告書・見直し方針」というものを平成30年3月に公表させていただきました。事業主体であります特別目的会社、我々はよくSPCと呼んでいるんですけども、その会社とはこの見直し方針に従いまして、契約書の規定に基づき協議をこれまで行ってまいりました。しかしながら契約書の条項の解釈をめぐり、見解の相違があり、その直接の2者間での協議では残念ながら合意に至ることができませんでした。そこで現在は中立公正な第三者、裁判所なんですけども、交えた調停において話し合いによる早期解決を目指しているところでございます。見直しを行った主な事業につきましては、多機能型市営住宅、寺津温水プールや、きらスポーツドームの建設をしないといたしました。

また、きら市民交流センター支所棟につきましては、先ほどおっしゃいましたようにフィットネス部分を生涯学習施設、要は公民館だと思っただけであればいいんですが、用途変更するための設計業務を現在行っているところであります。設計後に改修工事を行い、来年度のできるだけ早い時期の開館を目標としておりますので、よろしく願いいたします。

○齋藤資産経営局長

資産経営局の齋藤といいます。よろしく願いします。

きら支所棟について、今の状況について少し説明させていただきます。今年度に入りまして、きら支所棟につきまして設計を依頼しました。概算工事費を出していただいたところ、新聞に書いてあるとおり大変オーバーしていると。今年の予算を大変オーバーしているというところで、今現在ちょっとその内容の精査をしているところであります。ぜひとも先ほど市長が言いましたように、来年度の早い時期にはオープンしたいなということで、今頑張っているところであります。

よろしく願いいたします。

○亀沢西部町内会（杉浦会長）

どうもありがとうございました。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

次に、3件目を鶴城小校区町内会長会会計の柴田様、よろしく願いいたします。

○鶴城小校区町内会（柴田会計）

鶴城小校区の新屋敷町町内会長の柴田です。よろしく願いします。

質問の前に、先週、鶴城校区の会長町内会がありましたけれども、そのときに校区の協賛金の確認をお願いしましたけれども、そのときにちょっと御礼を言うのを忘れておりました。町内会長会としては校区の協賛金で運営が成り立っておりますので、御礼を一言言っておかないといけないかということで、ここでちょっとこの場を借りて御礼を申し上げます。

では、質問ですが、市民病院についてですけども、僕も医療なんか全くの素人で、本当に素人考えしかちょっとここには書けませんでした。とりあえず、ちょっとここに書いてあることと、それからあと実は僕の主治医の先生、この書類を書いた後にちよっ

と定期健診で行って少し話を伺いましたので、それもつけ加えて少しお話をさせていただきます。

西尾市民病院と碧南市民病院の経営統合に向けた取り組み、これは先ほどお聞きしました。碧南と西尾と何か共同で仕入れとかも安くなると。それから候補地、何かちょっとわさで聞いた話なんですけれども、何か碧南側にするとか、西尾市側にするとか、そういう話も聞いていたんですけれども、これは先ほど何か二つで運営するというのを聞きました。それからこの公営の病院についてですけれども、やはり町医者ではできない部分をカバーするべきであって、それは何かというとやっぱり救急医療。これに尽きると思うんです。例えば碧南側にできた、西尾市側にできたでは、これではもう運んでいるうちに何か亡くなってしまう人もできてしまうような危険性もあるので、これは西尾は西尾で必ず救急医療ということで置いておいていただきたいと思います。

それから、今大変かなり赤字が出ているということで聞いておりますけれども、公共施設なので少々の赤字は僕はしょうがないと思うんですけれども、その許容範囲はどれぐらいになるのかというのが、ちょっと知りたいなと思っているところであります。

それから、これは全くの素人考えで、医療というような観点で見るのではなくて、例えば人の集まる場所、それが今ここに書いてある道の駅とか、ちょっと極端な言い方すると、愛知こどもの国とか、そういうところにあってもいいのではないかなと。これは素人考えで思いました。それは例えば待ち時間が1時間、2時間、そういうときに道の駅とか、愛知こどもの国ですか、そういう施設にあれば待ち時間も、そういうところで楽しんでもらえると思います。かえって人も増えるというような長所もあるのではないかなと。これは全くの素人考えであります。

それから、その後ちょっと先ほども言いましたけれども、主治医の先生に詳しく話を聞いた部分があるんですが、安城の更生病院があります。あそこは今黒字経営だと思います。これ、西尾の市民病院に行くと、それから西尾、碧南ですね。どこが違うのか、それが知りたいです。更生病院は黒字にできて、何で西尾の市民病院は黒字にできないのか。それは多分、何か根底に何かがあると思うんです。それは僕の主治医の先生に聞いた限りでは、やはり西尾の市民病院は足りないところがあるらしいです。それは一つの売りをつくること。例えば泌尿器科なら更生病院というような売りがあって西尾ではできない、碧南ではできないというのが更生病院に回っている。だから、西尾は西尾で何か一つ売りをつくるべきだと思います。それをするには、先ほど市長の言われたように先生ですね、お医者さん。やっぱり連れてこないといけない。それは、今どうも西尾の市民病院は藤田医科大学ですか。そういう先生が多いそうですけれども、やはり国立から持ってこないといけないと。それは愛知県でいうと名大ですね。名大から、それもその論文を何件か出しているような先生を持ってこないといけないと。ただ、その場合、一人単独で来てくださいますと言ってもなかなか来てくれないので、若手の研修医を、二、三人をセットで持ってくるような、そういう確保でないと、なかなか来てくれませんよという話は、僕の主治医の先生に聞いています。私立の大学の先生の悪口を言うわけではないんですけれども、やはり国立の先生でないと、なかなか今の市民病院の現状で言うと、もうちょっとモラルも下がっていると。先生自体がね。挨拶もろくにひとつできない先生もたくさんいるので。やはりちょっと質の低下がひど過ぎるので、もう少し質を上げていかないと患者さん方にも納得してもらえないような医療ができないのではないかという話でした。そんなところです。済みません。

○中村市長

柴田さん、御意見、御質問ありがとうございます。

今聞いた中での、ちょっとお答えになりますので全部網羅できるかどうかわかりませんが、まず西尾市民病院と碧南市民病院の経営統合に向けた取り組みにつきましては、本年3月、西尾市は碧南市から提案がありました碧南市内での建設を前提とすると。碧南市としての条件だったわけなんですけれども、その考え方に対しましては同意できないというふうにお答えをさせていただきました。その一方で、冒頭で申し上げましたよう

に、新たに両市民病院を経営統合し、両市で2病院体制を維持しつつ、両病院で急性期医療を継続する内容の提案をさせていただきました。これに対しまして、4月に碧南市から医療連携については合意、病院体制に関しては市民サービスの向上や経営改善を図れるよう、研究、検討を開始したいという回答がありました。現在は、それに従ってと言いますか、両市の病院で検討を進めている段階であります。次に赤字についてありますが、一つの考え方として、減価償却費というものがあるのですが、それは帳簿上に費用が計上されるだけでありまして、実際にその金額を支払うわけではないので、その金額分を許容範囲とする考え方もあるにはあるそうではありますが、市としてはそういった考え方ではなくて、本来赤字の許容範囲があるとは考えてはいないんです。しかしながら、現実的にはここ数年、市の財政状況の許す範囲内で赤字補填をしているのが現状であります。例えば、平成29年度で申し上げますと、一般会計から約19億7千万円を支出しております。このうち国からの通知で一般会計が負担すべき経費とされているものが約14億8千万円。一般会計が負担すべき経費を上回るものが約4億9千万円となっております。簡単に言ってしまうと、経営上の赤字、黒字というのは重要ではないとは言わないんですが、そこよりも赤字補填みたいな形で、市の本体から病院に、平成29年度でいうと20億、お金を出しているわけなんですね。それが際限なく何億でも出せるかという、病院で出す分の市民サービスをほかで削ることになるわけなので、余りにも際限なく出すのは難しいよねというのが根本の問題意識であります。その平成29年度分の基準で言うと、大体20億円ぐらい病院に出しているんですけども、そのうちの15億円についてはそれは妥当でしょうという金額なんですね。残りの5億円は、本来的には病院の経営努力で何とかしてほしいんですけども、その5億円を市から出さないと病院の経営が立ちゆかなくなってしまうので、出していますということなので、目安としてはその5億円分は本来病院の努力で何とかしてほしいということですねというイメージを持っていたいただければいいかなというように思います。

あと、病院の建物につきましては、現在建てかえをするのか、いわゆる長寿命化という方法を取るのかというのは、まだ正直決まっておられません。ただ、今後、建て替えを検討していく場合にはおっしゃられたように、その人の多く集まる場所というのは一つの大事な視点かなというふうに思っていますので、そういったところを踏まえて考えていきたいなというふうに思います。

あと、安城更生病院なんかの民間病院と比べてということになると、いいですか。ちょっと後で調査してください。一つには、人件費率が高いとかということもあるんですけども、我々、公立病院って、病院の院長とかは本来的にドクターだし、事務部門というのは市役所の人事ローテーションの中に正直回しているんで、そんなに1人の人が10年、20年いるということがないという形になると、なかなか経営的なノウハウがそこに蓄積されにくいという状況はあるのかなというふうに思います。ですので、経営をやっていくという部分については正直、民間病院よりも公立病院の方が弱いという部分はありますし、あとは公的医療というものは必ずしももうかる、もうからないだけではなくて、医療の最後の砦だと思っていますので、そういう採算性とは別のところでしっかり医療供給体制として面倒を見ると言う失礼ですけども、しっかり医療をやらなければいけないという、この責務は民間病院よりも厳しく持っているつもりでありますので、そういったところが影響として大きいのかなと思っていますけれども、ちょっと詳細は病院の事務部長からまた説明させていただきたいと思っています。

○尾崎市民病院事務部長

市民病院事務部長の尾崎と申します。よろしくお願いいいたします。

御質問いただきました西尾市民病院あるいは碧南市民病院と、安城更生病院の違いということなんですけれども、まず大きく病院の形態が一つ違います。病院といいますのは実は種類がありまして、一次救急、二次救急、三次救急というような言い方をしているんですけども、一次救急というのは一般的なまちの診療所だとか、そういったところ、クリニックだとか、そういったところがほぼ該当します。私たちの市民病院は二次

救急と申します。これは急性期を主に担う領域でございます。それから安城更生病院はそれより一つ上の三次救急という、そういった病院の種類となります。この三次救急というのは何するかというと、高度急性期。本当に重症な方を診るような病院だと思えます。そういった場合、まず何が違ってくるかといいますと、診療報酬という非常に難しい言い方になってしまって、わかりづらい部分があるんですけども、診療したときに医療保険の方からお金が入ってくるというのがあるんですけども、そういった、そもそも単価が大きく違ってきます。ですので、安城更生の方が治療した場合に、実は皆さん1割だとか、3割だとか、お金を支払われていると思うんですが、ものによっては同じ診療でも若干安城の方が高かったりすることもあります。それから救急の場合、本当にひどい救急の場合、命にかかわるような、高度急性期の場合ですと、例えばよく聞かれるICU、集中治療室というものがあるんですが、そういった集中治療室というのは西尾市民病院にはないんですが、安城は持っております。ですから、そういったところの単価が大きく変わってまいりますので、収益的には安城更生の方が収益が上がりやすい。例えば、公立病院でも三次救急という病院がございます。近くでいいますと、岡崎市民病院。岡崎市民病院は、ここ数年ちょっと赤字傾向になってきたんですが、昔は黒字です。それから豊橋の市民病院、これも三次救急で今でも黒字の経営をしております。こういった三次救急は、黒字になりやすい傾向にあります。では、なぜ三次救急だと黒字になりやすいか。先ほど申しました診療報酬の問題が一つございます。それから、もう一つ大きいのは医師の問題です。今、大学の考え方はそういった地域で救命をしていくような、救急を主にやるような病院というところには医師派遣をどんどんしていくと。センター化というような言い方をしております。ですから、救命救急センターを持っているような、三次救急だと救命救急センターという、そういった部門があるんですが、そういったところを持っているような病院には、やはり医師をどんどん派遣します。ですので安城更生ですと、100人を超える医師数があるかと思えます。病床数は700ぐらいのところですよ。例えば西尾市民病院ですと、今372床なんですが、医師の数が40人ちょっと。やはり、その医師の派遣の度合いというのは、大学も力の入れようが変わっています。これは、地域に三次救急としてやっていくところがないと、これはやっぱり困りますので、いざというとき、本当に今命が危ないというときには、やはり三次救急が頼りになりますので、そういったところに大学は力を入れていくというのは、ある意味仕方のないことだなと思えます。

それから、売りをつくるというお話です。これもおっしゃるとおりで、売りをつくるっていくというのは本当に必要であると思えます。医師の確保に関しまして、若い医師も含めて複数確保するようにとのことですが、これ実は逆で、実際に派遣していただけるのは、良くて1人。もしかしたら派遣していただけるかどうかという状況です。いろいろな公立病院が、大学にお願いに行くんですが、複数の医師をぱっと一気に派遣していただけるというのは、これはもう滅多にないお話になります。

西尾市民病院は、先ほど藤田が多いというふうにおっしゃられましたが、ほとんど名古屋大学です。名大から派遣をされています。ただ、一部の診療科では藤田医科大学の方から派遣をさせていただいている、あるいは愛知医科大学の方から派遣をさせていただいております。名市大も一部はございます。ただ、基本的には名大からの派遣ということになっております。

先生が挨拶もしないというような、お叱りを今いただいたわけなんですけど、先ほども申しましたとおり安城更生ですと、百三、四十の先生が見えるのではないかと思います。救急車の数でいうと、安城更生さすがに9,000台、1万台弱ぐらいの救急車を年間受けております。では、西尾市民病院はどうかと申しますと、今41人の医師で、もちろん非常勤の先生に外来で来ていただいているとか、宿直だけやっていただいている先生も来ていただいておりますが、基本的に常勤の医師は四十一、二名の中で、昨年度で言いますと、4,300台の救急車を受けております。もちろん安城と比べて運ばれている患者さんの状態が違うことも当然あるわけですが、数で言いますと医師の数とそれから救急車の数で言いますと、圧倒的にうちの方が1人の医者が受ける救急車の数が多いという状況でございます。大変うちの医師も疲弊している状況でございます。そういった中で、も

し挨拶ができてないようなことがございましたら、それは大変申しわけなかったなというふうに感じております。いろいろな会議の中でも、そういった御意見があったということ伝えてまいりまして、挨拶はしっかりするようには指導はしてまいりますが、そういった中で非常にうちの医師も今疲弊していく部分だけは、ちょっと御理解いただければありがたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

次に、4件目を八ツ面小校区町内会長会の会計の柘植様、よろしく願いいたします。

○八ツ面小校区町内会長会（柘植会計）

戸ヶ崎五丁目町内会長の柘植と申します。私からは八ツ面小学校の改築、改修計画ということで、質問をさせていただきます。私の母校である八ツ面小学校は、昭和46年から校舎の鉄筋コンクリート化が始まりました。昭和52年度に4階部分が増築されまして、現在の形となっています。その後、耐震補強ですとか、トイレ改修などの施設整備に御尽力をいただいたことにつきましては、まことに感謝を申し上げるところでございます。ですが、建設後、既に47年が経過しておりまして、校舎内部や給食室の老朽化が目立ってきております。職員室や校長室も手狭になっておることは十分に聞いております。

現在、西尾市では公共施設再配置計画が進められておりますが、八ツ面小学校の校舎改築ですとか、改修計画はどのようになっているのか、教えていただければと思います。あるいは改築の時期がいつごろになるのかということがあればお聞きしたいと思っております。

さらに、西尾市では36校の小、中学校があるわけで、公共施設でいけば538もの施設があると思いますが、これらも同様に老朽化が進んでいると思われれます。これら公共施設の改築や改修計画がどのようになっているのか、教えていただければと思います。今後、ますます少子高齢化が進んでいると思われれますので、また財政的にもゆとりがあるのか、ないのかということが心配になります。改修計画、改築費等の費用が今度捻出されるのかどうかについて、お尋ねしたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○稲垣教育長

失礼します。教育長の稲垣でございます。柘植様、御質問ありがとうございます。

前半部分の八ツ面小学校のことにつきまして、私の方で答えさせていただきます。市内の学校施設につきましては、高度成長期以降に集中的に整備をされてきておりまして、八ツ面小学校も同様でございます。このために実は今後、一斉に校舎等が老朽化を迎えまして改築や改修時期となりますので、それぞれの建物についての個別の施設計画を今年度と来年度で策定をしております。この計画に基づきまして、八ツ面小学校初め、全ての学校の整備について検討してまいりたいと、このように考えておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。お願いいたします。

○中村市長

公共施設全般については、僕の方から回答させていただきます。

市内の公共施設につきましても、近い将来に一斉に建てかえの時期を迎えます。建てかえには膨大な費用がかかるため、将来の人口減少を加味した長期的な視点による公共施設再配置を推進していく必要がございます。今後は公共施設のあり方を見直し、次世

代の負担をできる限り軽減していくことを目的として策定いたしました公共施設再配置基本計画及び施設ごとに整備計画をまとめた個別施設計画というものに基づきまして、建物の長寿命化やあるいは建てかえを計画的に進めることによりまして、財政負担の平準化を図り、施設利用者の活動拠点の確保を勘案した施設の統廃合を行ってまいりたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

それでは次に行きたいと思えます。

次に、5件目を八ツ面小校区代表町内会長の畔柳様、よろしく願いいたします。

○八ツ面小校区代表町内会（畔柳代表町内会長）

八ツ面小校区代表町内会長の畔柳です。よろしく願いいたします。

私の方からは市立図書館の改修、リニューアルのお願いについてです。市立図書館は、近隣他市の図書館に比べて、近代化とかバリアフリー化が遅れており、見劣りしていると思えます。今後、図書館の改修やリニューアルの計画はありますか。17万都市にふさわしい魅力ある図書館としてリニューアルすれば、多くの市民が利用するようになると思えます。また、隣接の岩瀬文庫の方の活用も合わせて検討して、市民の集まる文化の場となるようにしたらどうでしょうか。

以上でございます。

○稲垣教育長

畔柳様、御質問ありがとうございます。

市内にあります四つの図書館の維持管理あるいは改修等の具体的な方針を定める施設ごとの長寿命化計画というものを令和2年度に策定する予定でおります。今後の図書館の改修やリニューアルにつきましては、その計画に基づいて行ってまいりたいと考えております。また、その計画に加えまして西尾市の文化財の保存、活用の基本計画となります西尾市文化財保存活用地域計画というものを、今年度より3年間かけて策定を行ってまいります。その計画の中で、岩瀬文庫と図書館に隣接するおもちゃ館を総括的に活用していく計画を検討してございまして、今後図書館を含めたエリア一体を文化の広場となるように整備を検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

次に6件目も引き続き、八ツ面小校区代表町内会長の畔柳様、よろしく願いいたします。

○八ツ面小校区代表町内会（畔柳代表町内会長）

続けて質問させていただきます。私の方からは、広報を月1回に変更することについてです。今現在、広報にしおは月2回発行されてございまして、配布は非常に大変です。今年私もその作業を担当することになりまして、実感している状況であります。月に1回、何とか内容を厳選あるいは濃縮して月1回の発行にならないかなと思えます。経費削減にもなると思えますので、現行2回を1回にするということは、できないものなのではないでしょうか。どうしても月2回必要なんではないでしょうか。その辺をちょっとお聞かせ願いたいと思えます。

○中村市長

畔柳さん、どうもありがとうございます。

この件については、確か2年前にも同じような御意見というか、御質問がありまして、そのときは余り具体的な回答は確かできなかったように記憶はしておりますけれども、広報にしおにつきましては、配布にかかる負担を軽減させるなどの目的から、令和2年度の4月から月1回の発行とする予定でいます。月1回の発行と合わせて紙面のリニューアルを予定しており、より一層親しみやすく手に取っていただける広報紙になるよう、努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

これまで広報を月2回発行しておりました理由といたしましては、月1回にすることで時期に即したお知らせを掲載することが難しくなることや、ページ数の増加により情報が埋もれてしまうことなどを危惧しておりました。今後は紙媒体である広報にしおの発行回数を見直しに合わせまして、西尾市のホームページや市の公式フェイスブックあるいはインスタグラムなどのSNSを活用することで、即時性ですとか検索の容易さも含めて実現できるのではないかというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。私どもから事前にお伝えした全ての意見や質問などに対しまして、ただいま回答がありました。ここで、これまでの意見や質問の回答に関する御質問などをお受けする時間といたします。なお、自由意見などについては、後ほどお時間を設けますので、そちらでの御発言をお願いし、ここでは地区取りまとめの事前質問や市からの回答に関する質問に限らせていただきます。御発言に当たっては挙手をお願いいたします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってから発言してください。なお、限られた時間でありまして要旨を簡潔にまとめ、御発言いただきますよう御協力をお願いいたします。

それでは、御発言のある方は挙手をお願いいたします。

はい、お願いいたします。

○鶴城小校区（マツイ様）

鶴城小校区社会教育委員のマツイですけれども、よろしく申し上げます。

5番の市立図書館のリニューアルについての中で、図書館と岩瀬文庫は建物のことについては多分、図書館と岩瀬文庫に。しかし、あの大部分は鶴城公園という、この地区の人ではほとんどその名前は必要がない、鶴城公園になっています。それで今、公園やろうとしています。市民の集まる文化の場というふうに言った場合に、その市立公園というのは鶴城公園というのがどういう形、どういう景観、どういう環境にするのかというのが、それが一番大事なことです。と思ったら、今偶然、大きな遊具ができつつある。西尾市の人というのは、何か公園と遊園地と何か間違えているのではないかというような気がして、公園をつくるということは遊園地をつくることではないんです。子ども遊び場。公園というのは年寄り、高齢者から子どもから、あらゆる人が親しめるのが公園であって、遊園地は多分子どものための遊具を置いて遊ばばいいと思う。しかし、公園の整備と同時に図書館、岩瀬文庫の環境、景観というのを、どういうふうに考えていったらいいのかというのが一番大事だと思います。それをあと一個、今度今どういうふうに今あの地を、要するに鶴城公園、図書館、岩瀬文庫のエリアをどういう形で整備して今行こうとしているのか。今それが、西尾市の今、大切に何かお互いの図書館とか、岩瀬文庫と公園のどっちが全然よく話をされていないような点ではないかという、勝手にそのいろいろな行事とか、いろいろなことをやっておられるのではないかという気がします。だからその点、よく話をされているのかどうかというのを聞きたい。

それからもう一つは今言った市立図書館のとか、岩瀬文庫というのは、要するに建物に関しては今教育長が言われたとおり、そういう方向でやっていただきたいと思います。

けれども、ただ僕はそのものよりもソフトの問題だと思う。それで図書館の職員の充実。それで岩瀬文庫というと、実際ここで質問したいんだけど、岩瀬文庫には岩瀬文庫係というのはありません。岩瀬文庫を担当している職員というと、本当に学芸員というのは一人です。そういうふうに管理者が1人ずつでたった2人で岩瀬文庫を運営しているというのが事実です。それで、それを考えたときに昭和初期に、西尾市に好いたものが一つあると。それは何かと。もう戦前から言われたやつ、それを岩瀬文庫と。まだ、いまだに岩瀬文庫がその存在を認知されていない。職員の方々も、その岩瀬文庫のことはほとんど認知されていない。この現状をいかにしたら、やっぱり、職員の担当だと思いますけれども、やっぱりそこら辺はやっぱり市長の方々で、やっぱり公務があったときに、あの周辺の地域、地区、景観、環境及び人材をどのように、やっぱり一つずつクリアして考えていきたいのかという意見を少し聞きたいと思います。

○吉田建設部次長

建設部次長の吉田と申します。よろしくお願ひします。

マツイ様、御質問ありがとうございます。最初の質問で、鶴城公園ということで、皆さん知られないかもしれませんが、岩瀬文庫を含めまして、テニスコートの南駐車場まで含めた部分が鶴城公園という位置づけになっております。約2.3ヘクタールございます。今、言われた岩瀬文庫とあと公園ということで、その東側に公園があるんですけども、今回、建設部の方から遊具を設置する工事の方を発注しております。その辺りの遊園地のような遊具がつくのではないかということの御意見でございます。あとは、まず岩瀬文庫等を所管する文化振興課との話し合いができてないかということでございますので、そちらの辺りについてお答えいたします。

鶴城公園につきましては、過去の市政懇談会でも出たと思っておりますが、公園遊具の整備について御意見をいただいたこともあります。人が集まれるような遊具を設置した方がいいのではないかなというようなことも言われたことがございます。市民の声等でもいただいたこともございまして、そういったところを含めて、子どもたちにこう使ってもらえるような遊具ということで、少し大きめの森をといるんですか、木をイメージした形で4本のやぐらが立ったような形で、そういったものをイメージしたような遊具で、ちょっと色目として遊園地というようなことで、少し原色を使ってインパクトをつけたいということもございまして、そういったものをつくることで、子どもさんたちが遊んでいただけるのではないかなというようなことで、今回、公園の方の整備をさせていただきました。エリア全体をどういうふうに考えていくかという御意見でございましたので、今回はそういった部分を少し優先し過ぎてしまった部分もございまして、今後そういった色目等につきましては、塗装等ずっと持つものではございませんので、塗りかえるとき等にはそういった色目をかえていくようなことも調整しながら進めてまいりたいと考えております。

よろしくお願ひします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。お願ひします。

○永谷教育部長

教育部長の永谷と申します。マツイ様、質問ありがとうございます。

岩瀬文庫につきましては、本当に日本唯一の施設であると自負しております。とても大切にしていかなければいけない施設であると認識しております。特に人材という意味では、本当に財産であるというふうに思っております。運営面でも非常に苦慮しているところは事実でございます。あと、観光面でも非常に期待ができるところでありますので、充実した運営が今後できるよう、教育委員会としても体制であるとか、それから職員配置については十分考慮しながら人員確保、そして財政面においてもしっかりと要求をしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○中村市長

マツイさん、どうもありがとうございます。

僕とマツイさんとで、ちょっと考え方が違うかもしれませんが、岩瀬文庫については一つには外部的な要因になりますけれども、平成28年度に当時の皇太子殿下が来られたということは、やっぱり一つの大きな理由となって市民はもとよりですけども、市外の方にも認知度は大分高まったかなというふうに思っています。最近では、学芸員が本当にいろいろ工夫をしてくれて、企画展をやっているものも多くの皆様方に御来場いただいていますので、施設の性質上、広く一般受けするものではないかもしれませんが、ただ確実にファンは増えているのかなというふうに思います。あと、僕自身の考え方として、その文化的なものというのは、これまで守る姿勢が強かったのではないかなというふうに感じています。当然守るべきものは守るんですけども、ただ広くその魅力をPRしていこうよという、そこの攻めの部分が僕は弱かったと感じていまして、ですので、攻めの文化施策ができるための人員配置はしているつもりでありますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

○司会（高橋会長）

ありがとうございます。ごめんなさいね。柘植さんが先ほど早かったものですから、申しわけありません。

済みませんね。お願ひいたします。

○八ツ面小校区町内会長会（柘植会計）

五丁目の柘植です。済みません。今、先ほどの回答をいただいているわけですけども、個別計画が来年度には完成するというお話であるとする、先ほども言いました八ツ面小学校も47年経過しているわけですし、仮に長寿命化改修がされたとする、耐用年数は80年という考え方だと思うんです。35年後に改築ということになります。長寿命化改修が来年度にされればということですけども、これが数年後、10年先だということになってしまうと、校舎自体はもう57年を過ぎてしまって、せっかくきれいにしていただけかなという校舎も20年ほどで改築しなければ、取り壊さなければならないことになるのではないかなと思うわけです。私としては、せっかく長寿命化改修できれいになるのであれば、その校舎は30年ぐらい使えたらいいのではないかなというふうに思いますが、この個別計画ができた段階で改築あるいは改修ということになるのであれば、公表をしていただけるかどうかお聞きしたいと思います。

また、先に聞いております公共施設等総合管理計画があったかと思いますが、こちらの方を読みますと、現状では今後30年で約3,725億円のお金が必要であると。不足するお金が約1,700億円生じますよと。このままの状態ではほかっておけばということだと思いますが、費用が45%ほど不足する状況では、学校施設への整備というのも当然ながら計画どおりにいかないというふうに思います。将来の西尾市を担う児童生徒が学ぶ学校施設が絶対必要なものだと思いますので、ぜひ積極的に整備をしていただけないか、御質問させていただきたいと思います。

○永谷教育部長

柘植さん、御質問ありがとうございます。

今、御案内いただきました個別施設計画ですね。こちらにつきましては学校の施設を長寿命化をすることを前提にしまして、今後の改修の費用であるとか、改修の時期ですね。そういったものを策定するものでございます。このために、市内全学校の計画を策定をしなければ、八ツ面小学校がほかの学校と比較してどのぐらい老朽化が進んでいるとか、どの時期に改修であるとか、改築をすべきかということがわかりませんので、まことに申しわけございませんけれども、現段階では公表することができない状況でござ

います。

あと教育委員会としましても、これまでも各学校の施設状況を調査をしたり、大規模改修や改築などの計画策定を行うなど、積極的に予算要望などを行ってまいりましたが、残念ながら財政状況であるとか、いろいろな事業の優先順位、そういったものなどの影響によりまして、思うようには施設整備が行われていないというのが実情でございます。今後とも西尾市の未来を担う子どもたちのためにも、積極的に教育委員会としましては要望を続けてまいりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○高原総務部長

総務部長の高原と申します。「財源不足」というお話が出ましたので、私から市全体の財政状況について、少しお話をさせていただきます。御承知のとおり西尾市は合併をして、今年で8年目を迎えております。合併をしたことによる国の特例措置の最も大きなものが普通交付税の特例交付でございまして、この特例は合併後11年経過するとこの特例がなくなるという状況にございます。また、今後は西尾市においても人口減少が見込まれておりますし、税収による財源確保もなかなか難しくなっております。そのほかには高齢化が進むことによります社会保障関連経費についても、増える一方という状況でございます。

未来を担う子どもたちが学ぶ学校施設の今後の整備計画につきまして、柘植様の方で御心配になられるお気持ちは、私の方でも十分理解はしているつもりでございます。しかしながら、教育委員会が所管するだけでも小学校の他にスポーツ施設だとか文化施設だとか、またこのふれあいセンターのような生涯学習施設もございまして、また、その他の分野では福祉関連の施設だとか保育園など、多種多様な施設を市では管理、運営をしております。多くの市民の皆様にご利用いただいているという状況でございます。これらの施設を統廃合はしていくこととなろうかと思っておりますけれども、バランスよく整備をしていく必要がございます。したがって、学校施設のみを優先して整備していただけないかということにつきましては、なかなか難しい面もございまして、何とぞ御理解いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございます。

予定した時刻となりましたので、ここからは自由意見交換の時間として進めてまいります。お時間は午後8時15分までとさせていただきます。皆さまには、先ほどの地区とりまとめの意見や質問などに関わらず、まちづくりに対する提案や意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら御発言をいただきたいと思っております。

また、市長様からお話のありました市政運営に関する御質問などがございましたら、御発言ください。先ほどと同じように御発言に当たっては、挙手をお願いします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってください。なお、より多くの方に御発言いただけるよう、要旨を簡潔にまとめ御発言いただきますよう、御協力をお願いいたします。それでは、御発言のある方は挙手をお願いします。

どうぞ。この方、はい。済みません。

○志籠谷町（スギウラ様）

志籠谷町のスギウラと申します。先ほど松井さんもちよっと質問された鶴城公園のことが関連しているんですけども、実は山田議員はこの地区は、この公園をつくる時に非常に御尽力いただいて、西尾市で唯一市民が立ち上がって作った公園ということも私は理解しています。これには、この伊藤町の人ですとか、周辺の鶴城校区の方、みんなそろってこの公園の意見を出して整備した記憶がございます。今も御存じかと思っておりますけれども、今、西尾で唯一水遊びができる公園として、今、夏になると水を流しています。子どもが水で遊んでいます。これは西尾で唯一の水遊びができる公園になって

います。先ほど市の公園の建設の方が言われましたけれども、遊具を置いたらどうの、こうの。遊園地、そうそう松井さんが今おっしゃられましたけれども、公園というものはやっぱり市が押しつけてはだめだと思っんですよ。そんな遊具を置けばいいというよな。これは学校の施設と同じことで、学校を一番知っている、やっぱり地域の八ツ面校区なり、鶴城校区なりの人が学校のことを一番よく知っているはずなんです。学校のどの辺が悪い。例えば八ツ面小学校であれば、風がびゅうびゅう吹き込む。ガラスがもう古いよということ。みんな校区の人、知っているんですよ。もう校舎も古いことも。それは市の人は視察して云々以上に、市民の人以外も、すごく知っているということなんです。そのことを例えばこの公園でもそうなんですけれども、押しつけるのではなくて、市民に投げかけて意見をもっと、もっと抽出する形を取ってください。ここの公園をやった日からもう8年たちますけれども、ほかに続いたという公園、聞いていないんですよ。市民がつくったという公園は。みんな押しつけなんです。遊具を置けばいいだろうと押しつけです。でも、この公園、御存知かと思っんですけれども、子どもの遊具は1個もありません。置きませんでした、わざと。その理由というのは、小学校が隣にある。幼稚園が隣にあるということで、遊具よりも町の人が必要なものを置くべきだろうということで体育施設を置きました。健康遊具を置いていました。それと同じことで、本当にその地区に必要なものは何かというのは、市民の人と話し合うことではないかと思っんです。意見を取り出す。その意見を取り出す環境を市の方ではぜひこうしていただきたいんです。いろいろなそのワークショップを開くのがいいかわかりませんが、あるいはコンサルを呼んで主導的にするのはやめていただきたい。あくまで市民を引っ張り出して1人でも多くの市民から引き出して物事を進めていく形を、ぜひ市の方から提案していただいて、そういうシステムなり、つくる場を持っていただきたいなと思っんですが、市長いかがでしょうか、その辺は。

○中村市長

はい、スギウラさん、ありがとうございます。

具体的にどういう方法でやるかというのは、今後の検討課題とさせていただきたいんですけれども、おっしゃるとおりだと思っんです。決して押しつけているつもりはないんですが、ただ現状を見ると、どの地区の公園も面白味がないとか、特徴がないとか、何か決まり決まったような公園が同じようなものがぼつぼつとあるような感じで、本当にそれが地元の方々に望まれている公園なのかなというところについては、確かに疑問符がつくものもあるんです。そこは今すごく自分自身も反省点として思っんです。今後、公園を整備する際には、本当に地域に望まれるようなものをつくるようにという指示は出しているところでもありますので、それがワークショップになるのかとかいう方法論は、ちょっと内部で検討させていただきますが、なるべくとか、どうせつくるなら利用者に喜ばれる公園にしていきたいなというところは同じ思っんですので、よろしくお願ひいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございます。

はい、済みません。よろしくお願ひいたします。

○道光寺町（クリオ様）

いろいろとありがとうございます。先ほど、病院の先生が挨拶をしないという声が出ましたんですけれども、市民病院で。申しわけございません。道光寺町のクリオと申します。

私、市民病院をつくる時に八ツ面の方が農地をお金でもらいたくないと。換え地をくださいということで、道光寺ではありますけれども、農地を出したことがございます。そういうことで市民病院にも愛着を感じているんですが、今、医者先生が挨拶ができ

ないということに対して、あそこで研修医をしていただいた先生が何とおっしゃってみえるかと。3年研修医をしていただいた先生がおっしゃるには、西尾市民は市民病院を財産として大事にしていなないと、開業医の先生も西尾市民病院を財産として大事にしていなということをおっしゃっておられました。私は直接先生からお聞きをしたかったんですけども、先生はこの3月をもって日本赤十字の方へ転籍されてしまいましたので、その後、事務局へはまだ行っておりませんので、どういう点をそういうふうにおっしゃったのか、お聞きをしたかったんですけども、先生方も忙しい中に一生懸命やっていただけだと思います。それから、市民のみんなが財産として大事にしなければいけないということは大切なことだと思います。

それから、公園の問題も出ておりますけれども、今は高橋代表町内会長が見えますけれども、図書館の前の用水をためる池ですね。あれは草だらけになっています。ようあれで何とも思わないですね。火事になったらどうする気ですか。私は西尾中学を卒業のときに、同年の者がハテボラというグループで、あそこに桜の木を植えたんです。よそからもらってきて買って買って買ってね。それをみんなで手入れをしていたんですけども、今もう83歳になりますものですから草刈りをするにも草刈り機を使えないぐらいという年になりましたので、これは亀沢の方で町内の行事として年1回ぐらいは草刈りをしていただきたいと思います。そのほかを市の方でお願いをしたいと。市の方に対しては公園の花時計を花をかえていただいたときに気がついた段階でよく公園課の方へ御礼に行っておりますけれども、あっ、また来たなという顔でいらっしゃいますけれども、あそこの花時計をつくっていただけのことも非常に一生懸命でやっていただけ。桜の木を植えた同年の者も一生懸命やって手入れをしてきたんです。ところがあれだけ今、草ぼうぼうになってしまっているんですよ。秋になったら、あれ枯れ葉になったらどうなるんでしょう。各町内におかれましても町内の清掃をしてみえんと思えますから、その清掃の業務の中に亀沢として入れていただいて、あの地区であの草を刈っていただきますようお願いをいたします。

今ちょっと紹介をしましたが、ハテボラという会はそのほかにお抹茶の普及にも力を入れておりました。それから私のグループに属しておりましたのが、前の文化会長のサカキバラさんでしたよね。市民病院の副部長をやられたときに何か寄附をしてもらいたいと。どうも車椅子がないから何とか寄附をしてくれということで、副部長になった女の子が同年でございまして、寄附をしたことがございます。その寄附をした車椅子が余りにも高価でありましたものですから、高価で使いにくいというようなこともあって、その数年後の副部長がもう1回、今度はやさしい、簡単なものを寄附してほしいということがございまして、5台ぐらい寄附した覚えがあります。一番最初的时候には、院長が名前を入れさせてくれとおっしゃったんですけども、いや、恥ずかしいから名前を入れないで有志一同ということでしたけれども、その後、そういう時代が来まして名前を入れて車椅子を寄附していただける会社がありまして、よかったなという気がしております。それからついでで申し上げておきますと、まず市長が自分の命は大切にしなさいということを言われました。交通ルールを守って社会を大事にしなさいと、人の命も大事にしなさいということを、市長は市の交通安全推進協議会の総会でおっしゃってみえたんです。私も良いことを言っていたなと思いますが、まずその関連で救急車は有料にしたいと思います。有料にね。利用した人が負担すると。公共施設は、それぞれの公共施設でもテニスでもそうですけれども、利用した人がそのお金を負担すると。現在、西尾駅から市民病院まで960円かかります。名鉄タクシーで。救急車の中には3人の救急士が乗ってみえます。それから救急車の中にはいろいろな医療設備がありますので、その何倍かに当たるわけですね。それがどうもタクシー代わりに使われてくれるのはあるように聞いておりますので。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

時間の都合もありますので、申しわけありません。趣旨を簡潔にお願いしたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

○道光寺町（クリオ様）

はい、わかりました。済みません。

そのほかには生活補助。これはやめたいと思います。本来ならば子どもが親を養育しなければ、養育というのは助けなければいけないと思うんですよね。それを社会でやらせているわけです。1年で、ずっとやめるといふわけにはいきませんから、将来、親の面倒は子どもが子どもとその親族で看なければいけないと思います。市の予算も固定資産税が半分です。それをみんな一生懸命働いて先祖代々のみんなが働いてつくった固定資産を税金として納めているわけです。そういうことで、市の方にもお金がありませんので、我々は子どもも含めまして一生懸命働いて税金を納めることが大事だと思います。

それから教育関連でお伺いしますけれども、今日7月は大河内さんの命日ではないですか。もう15年になりますけれども、大河内さんが亡くなられてからの15年間になりますが、その後、いじめも学校の方も配慮していただいているとは思いますが、私も校長会議の傍聴をお願いに行っただけですけれども、ちょっとどうもそれに値しないということでやめました。

○司会（高橋会長）

どうもありがとうございます。御意見として伺わせていただきます。どうもありがとうございます。はい、お願いいたします。

○新屋敷町（シバタ様）

新屋敷町のシバタです。

先ほどの御意見ありがとうございます。大方はモラルの問題だと思います。今ちょっと国レベルの話になってしまいますけれども、社会保障費が国家予算の4割。太平洋戦争のときの軍事予算ちょうど4割。先ほどのモラルの問題で、これを削減するには本当にモラルの問題だなと思います。

ちょっと済みません。市民病院の先ほど、三次救急はもうかりやすいと。それから二次救急はもうかりにくい。ということは、二次救急は全て赤字かというところではなくて、二次救急でも黒字の病院はありますよね。そういうところは、先ほど市長も言われたその抜本的にと言われたのか、何か西尾と碧南の経営統合とか言われましたけれども、それって抜本的ではなくてちょっと安易な考え方ではないかなと思います。それよりは二次救急でも黒字になっているところを見習って、何かやっぱり売り、売り。ここなら西尾に任せようというような魅力を作って、二次救急でも黒字を目指すという方向で行っていただきたいと思います。

以上です。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

○尾崎市民病院事務部長

御意見ありがとうございます。

確かに二次救急でも黒字の病院がございます。一つの主な要因としましては、医師の数というのは非常に大きな要因になっています。今、西尾とそれから碧南、お互いに医師の数が非常に少ないところがありますので、くっついて医師を増やしたいという、そういった部分というのがスタートでございます。今後ますます働き方改革だとか、そういったことで医師の派遣が難しくなる中で、少しでも医師を確保していくためにはそういった、必ずしも碧南ということに限らず病院の統合というのは、あちこちで起こってくるのかなというふうには感じております。ただ、言われるように、その

売りというのはやっぱり本当に大事だと思っていますので、そういったことも目指しながら改革していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。どうぞ、その、後ろのその方。

○道光寺町（スズキ様）

大分疲れておられるかと思いますが、最後だと思いますが、一つだけお願いします。皆さん共通の話題ではありません。道光寺の2部を担当しておりますスズキと申します。

済みません。改めて、ローカルな話題になってしまいますけれども、ちょっと申しわけございません。皆さんの共通の話題にはならないかと思いますが、せっかく市長さんがお見えになっておられますので、市長さんの耳にどうしても聞いていただきたい。お願いしたいと思えます。道光寺町というのは、御存じかも知れませんが、北から南へ細長い町内なんですね。そこに道光寺川というのが流れておりまして、用水のような川なんです、それが北から南、北の方が高く南の方が低くて、その道光寺川が北から南へ流れて東へカーブしてみどり川へ注いでおります。たびたび氾濫しているんですね。この間の台風の時も床下浸水が数軒ありました。私が思うには、そのみどり川に平行して走っている細い川がありますよね。西尾信用金庫中央支店の前に鯉が泳いでいるところです。今泳いでないかな。あそこをためて水をとめているんですね。以前はあそこは川だったんです。あれをとめているがために、そのみどり川がフルになって、オーバーになって道光寺川がうまく流れないと。カーブしているから、そこでフルになってしまうということがたびたびありました。私の息子も車を失いましたし、数軒、毎回台風にかかわらず、ちょっとした雨で氾濫してしまう場所なんですね。寺内下というところですけども。そういった事実を市長が、まず御存じかどうかということを知りたいことと、再三、前の町内会長を通じて土木の方にもお願いしているんですが、ちょっと物理的に無理かなという話もちらほら聞くんですが、その辺どうなっているのか、ちょっとお聞きしたいと思えます。よろしく願いいたします。

○中村市長

済みません。まず、具体的にその道光寺のところで浸水が起こっている被害がということは、ちょっと僕の方で聞いておりませんので承知しておりません。

○榊原上下水道部長

上下水道部長、榊原と申します。

鈴木様、毎回、大雨のときに御心配、御迷惑をおかけして申しわけありません。

今のお話で道光寺川、先日の19日のときにも道路冠水して、大変御迷惑をおかけしましたけれども、おっしゃるとおり、みどり川、北浜川なんですけれども、そちらの河川が、改修が県の方で進めていただいておりますけれども、まだまだ進んでいないと。結局その下流側がその下流からの能力がないものですから、道光寺川があふれてしまうという状態で大変申しわけないんですけども、うちの方でも例えば調整池を作るだとか、そういうことでちょっと検討は進めておりますので大変御迷惑をおかけしますけれども、御理解の方をよろしく願いいたします。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。もう一方の方、よかったですかね。一人ずつと手を挙げていてくださって済みません。いいですか。

○桜町（サカキバラ様）

桜町のサカキバラです。よろしく願いいたします。

ちょっと皆さん、結構大きなことを言ってみえて、聞かれてみえて、僕すごく細かいことなんですけれども、ちょっと教えてください。私55になりました、足腰非常に衰えを感じましたものですから、これはやばいということで自転車を始めたんですね。自転車に乗っていたら10キロ体重が落ちました。足腰もめちゃくちゃ健康になりました。多分、寿命が10年は伸びたと思います。本当にそれぐらい思っています。非常に健康によく、最近是三ヶ根山へ自転車で登りに行くんです。これはどうも三ヶ根山は自転車で登るのに有名なところみたいで、他市からも例えば名古屋からとかも訪れるし、自転車で訪れる方がいるようです。三ヶ根山を、もうへえへえ言いながら登り切ると、あの料金所までしか登れないんですけれども、それでも300メートル近くあります。料金所のところまで登り切ると、やっぱりもう疲れ果てて休憩がしたいわけですね。そうすると休憩する場所もあそこないわけなので、ただの道路なので、そうすると道端、道で座り込むしかなくなってしまいますので、そうしているときに、ここは市道だから道端にちょっとした自転車をかけるラックと休憩所でもあればいいなと思ったんですね。そのときにニッチな趣味ですから、テニスコートだとか、プールだとか、その広い、公共に広い部分は税金投入が簡単でしょうけれども、ニッチな趣味なことに税金を使うというのものなかなか難しいとは思うんですね。そうした場合には、では、その自転車の愛好家の人にネットでこういうものをつくりたいと。ネットで募金してもらえるの、あるじゃないですか。何て言いましたっけ。英語で何とか言うやつ。

○中村市長

クラウドファンディング。

○桜町（サカキバラ様）

クラウドファンディング。ああいうのを募集かけて、ではそういう休憩所欲しいよねということで寄付が集まったならば、じゃあ事前に、例えば市役所とここの市道にクラウドファンディングかけて、そういうのを募集したいんだけど、集まったらちょっとした土地を貸してくれないかとか、そういう話し合いというのができるのかなと。あるいは、そういう方法を取ればニッチな趣味の方にも、市のそういうものが利用できるような環境ができて、みんなハッピーかなと思うんですねけれども、そういうことができる方法というのは、相談する場所というのはあるんでしょうか。そこが聞きたいんです。

○司会（高橋会長）

よろしく願いいたします。

○吉田建設部次長

建設部次長の吉田と申します。

榊原様の今の質問ですけれども、窓口として今道路の一部をとというような話でありましたので、道路管理者も市の方になります。料金所より上については市の方で管理していない部分になりますけれども、料金所までは市道部分になりますので、そちらが窓口にはなるんですけれども、道路というものの自体がその車が通ったり、そういった交通の用に供するものということで、もし上を使おうとすると占用とか、そういった形になるのかなというふうに思っております。

○桜町（サカキバラ様）

道路用歩道とか、空き地とか。

○吉田建設部次長

要は道路の形態をしない部分で、市の用地等があればそういった部分にとかいうことも考えられるとは思うんですねけれども、その場所によってということになりますので、

市の土木課の方に来ていただいて、そちらの方で土地等の確認をした上で、当然できるということは、ここでは話はできませんけれども、窓口として土木の方に道路ということであれば来ていただきたいなと思います。

○桜町（サカキバラ様）

そういう相談はさせていただいていいわけですね。

○吉田建設部次長

ええ。その部分を、当然、道路施設ではないものですから、市役所の内部のことで、縦割りになってしまうので申しわけないものですから、ここではなんですけれども、そういったそのサイクリングと言うんですかね。自転車に乗られて、そういったものが必要だということに対して、道路としてそれができるということは、今のところ経験したことがないものですから、そういったものが他の市町にあたりだとか、その窓口が他の部署になったりだとか。そういった形で進められるものであれば、そういう話ではできるものなのかなと思いますので、そういったところについて、一度市の方にとということで、お願いしたいと思います。

○桜町（サカキバラ様）

わかりました。はい、わかりました。

○司会（高橋会長）

ありがとうございました。

お時間の都合がありますので、あと、お1人とさせていただきます。よろしくお願いたします。

○熊味町（ヤマモト様）

済みません。熊味町のヤマモトと申します。

ふれあいセンターの利用のことでちょっといつも思っていることがありまして、この例えば研修室なんか使いたいなと思ったときに複数人の名簿の登録が必要だよとか、定期的な利用をすることが条件だよと言われて、五、六人集まってちょっと1回借りてみたいと思うときに、ずっと貸してもらえなくて、そういう条件をクリアしなければ貸してもらえないというお話で、利用されてなくても部屋が空いていても貸してくれないというのはちょっと残念だなと思って、ちょっといつも思っていることで、今日、市長がこれに見えるということでちょっと言わせてもらいました。

以上です。

○司会（高橋会長）

ありがとうございます。市の方で今の事について、よろしくお願いたします。

○永谷教育部長

教育部長の永谷と申します。

いろいろ御利用について制限が入っておりまして、大変申しわけございません。公民館の類いにつきましては、やはり利用団体の登録が条件ということで、その代わり営利目的の使用もできないとかがあるものですから、そうではなく、いわゆる地域の交流センター的な、ちょっと名前がややこしいですけども、ほかに利用できるような場所もございますので、生涯学習課の方に、では個人で空いているときに使えるとか、そういう団体ではなくても使えるようなところもございますので、そういったところでまた御案内をさせていただきますので申しわけございませんが。

○熊味町（ヤマモト様）

それ、どこに行けば教えてもらえるんですか。

○永谷教育部長

生涯学習課にお問合せをして。

○熊味町（ヤマモト様）

市役所の。

○永谷教育部長

実際の場所は西尾小学校の北の所にございますので。中央ふれあいセンターという所に事務所がございますので、そうすれば近い所でこういったところがありますよとか、そういったようなことも御案内させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○熊味町（ヤマモト様）

ありがとうございました。

○司会（高橋会長）

どうもありがとうございました。

どうも皆様、進行に御協力をいただきまして、まことにありがとうございました。

それでは事務局へお返しいたします。ありがとうございました。

○細田秘書広報広聴課長

高橋会長、どうもありがとうございました。

それでは閉会に当たりまして、市長がお礼の挨拶を申し上げます。

○中村市長

本日は長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

フリートークの時間に手を挙げていただいた方が、多分ほかの地区に比べて一番多かったのかなという印象でありまして、ただその分、市政に対する思いが強い方が多いということで、非常にうれしく思ひます。

こういった大人数の場ではなかなか意見が言いにくいという方もいらっしゃると思ひますし、こうした地区別の懇談会については我々行政の方で時間、場所も指定した上でさせていただいていますので、違った形で市民の皆さんがもっと意見を言いやすい環境も必要だと思ひていまして、具体的には市民の声という形で投書ですとか、メールという形で率直に御意見とか御質問をいただく仕組みもございますし、これはちゃんと僕まで内容は確認させていただいています。また、今年度からは出張市長のどこでもトークという試みを始めまして、10人以上のグループという条件だけはつきますけれども、場所も時間も決めていただいて、あとは呼んでくれれば僕の方でどこでも出向いて懇談をさせていただきますよという仕組みも始めましたので、またそういった仕組みも有効に活用していただきたいなというように思ひます。我々といたしましては、当然行政としての知恵がありますので、そこは職員で頑張っていくわけでありましてけれども、市民の皆さんの、西尾市民としての生活をしている中での知恵もあると思ひますし、そういったものを行政に反映させていくことも非常に大事だと思ひておりますので、また率直にいろいろと、できることとできないことは結果としてあるんですが、率直に御意見を聞かせていただいて、なるべくそれが日常生活に反映できるようにというふうに思ひますので、今後とも御理解、御協力をお願いさせていただいて、閉会の挨拶とさせてい

ただきたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

○細田秘書広報広聴課長

最後に事務局から御連絡をいたします。

本日アンケート用紙をお配りしております。今後の事務の参考とさせていただきますので、アンケートに御協力をいただきまして、お帰りの際、アンケート用紙と筆記用具を出口の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。

2点目ですが、市では皆様の声を市政運営に反映させるため「市民の声」の制度を設けております。本日、様式を添付しておりますので、市政に対してお気づきのことがございましたら御意見等をお寄せください。

3点目ですが、市では今年度から「出張・市長のどこでもトーク」を行っております。これは、市長が皆様のところへお伺いし、日ごろから感じている課題やまちづくりに関する提案をフリートーク形式でお聞きするものでございます。詳しくは、お配りいたしました案内チラシをごらんいただき、会合等の際には、ぜひ御利用ください。

連絡事項は以上です。

それではこれもちまして、市長と語る市政懇談会八ツ面・鶴城地区を閉会いたします。

交通安全に御留意いただき、お気をつけてお帰りください。

ありがとうございました。